

地方航空路線活性化プログラムに係る 効果検証に関する懇談会（第2回）

発表資料（平成28年度取組実施計画（案））

平成28年3月4日

山形空港利用拡大推進協議会（事務局：山形県）
山形～名古屋小牧路線（フジドリームエアラインズ）
プロジェクト名 発着両側の分野別連携体制の構築
による山形名古屋便の活性化

I 取組目標及び取組課題・方針

1. 取組目標

平成28年3月27日に山形～名古屋(小牧)便の2便化が実現したため、運航ダイヤの改善効果も加味し、これまでの年間実績37,000人の2倍超となる年間75,000人を目標に利用拡大に取り組む。

(目標設定) **年間 75,000人(搭乗率68%)**
※当初目標35,000人+40,000人

H28夏 46,500人(搭乗率72%)
 H28冬 28,500人(搭乗率63%)

※搭乗率は提案時想定の76人乗り機材で換算

(設定方法)・利用者数は、運航するFDAと協議のうえ目標値として設定

2. 取組の課題

○全体

・現在の利用状況を見ると、中京圏在住者の利用が7割近くとなっており、2便化により順便、逆便が生じることから、名古屋側からの更なる利用拡大に加えて、現在利用が少ない山形側からの搭乗者数も延ばし、双方向からのバランス良い需要創出、利用拡大を図る必要がある。

○観光関係

・2便に見合う需要を確保するには、中京圏において、本路線はもちろん「山形県」自体の知名度がまだまだ不足している。
 ・活性化プログラムの終了後も「西の伊勢参り、東の出羽三山参り」のプロジェクトを継続していくため、関係市町村や、地元観光協会等と連携し、継続可能な運営体制を構築する必要がある。

○ビジネス関係

・これまで、ダイヤの不便さからビジネス利用が伸びなかったが、増便によりダイヤが改善されることから、利便性の向上をPRし、ビジネス利用の拡大を強力に進める必要がある。

3. 平成28年度の取組方針

○全体

・提供座席数が2倍となることから、運航するFDAとの連携を強化し、年間目標75,000人の達成に向け、更なるPR、需要創出に取り組む。

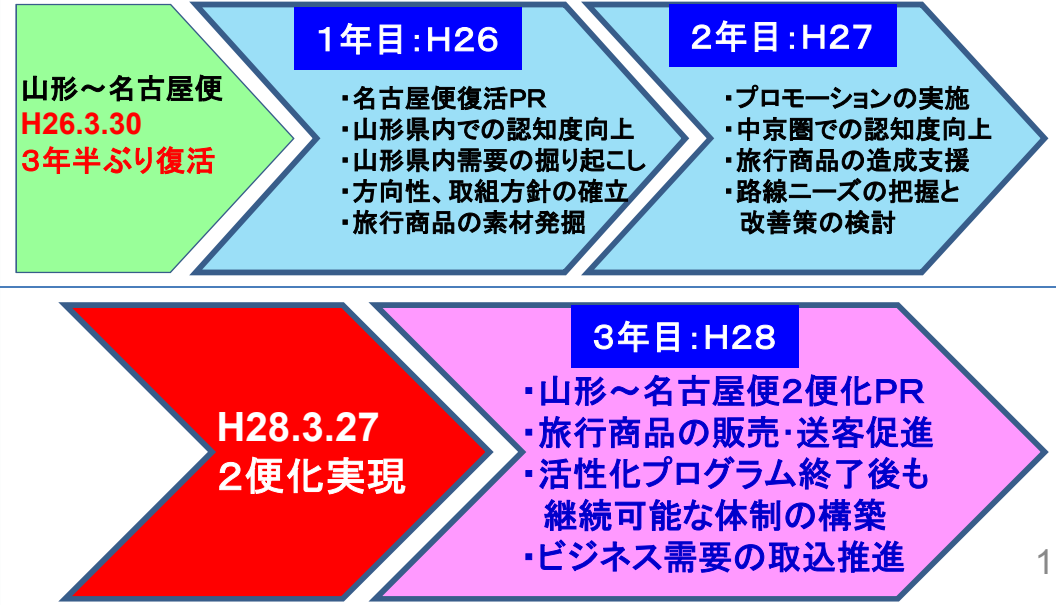
○観光関係

・旅行商品の造成が順調に進んできていることから、旅行商品の販売支援を強化し、実際の送客促進を図ることで、活性化プログラム終了後も商業ベースで旅行商品の造成、販売が行われるようにしていく。
 ・「西の伊勢参り、東の出羽三山参り」プロジェクトの継続可能な体制について協議・調整していく。
 ・山形空港からの二次交通については、活性化プログラム終了後も継続できるような二次交通整備に取り組む

○ビジネス関係

・山形県内及び愛知県内双方の経済団体と連携し、増便によるダイヤ改善、利便性向上について、企業訪問やPR活動を活発化し、サポーターズクラブや運賃助成と合わせた相乗効果により本路線の利用拡大を図る

事業スキーム(案)



II 取組計画



1. 「西の伊勢参り・東の出羽三山参り」相互交流の展開

1. 取組の実施計画(案)

- (1) **実施体制(双方向・連絡会議)の整備** → 連携推進のため、山形側と三重・伊勢側の行政、観光関係者、有識者等からなるプロジェクトチーム会議を開催
- (2) **中京圏、山形県の双方向のPR展開** → 広告、FDA機内誌掲載、山伏女子によるPR、モニターツアー実施 など
- (3) **山形～名古屋便旅行商品の造成・販売支援** → 造成支援に加えて、造成した旅行商品の広告費助成 など
- (4) **伊勢神宮、出羽三山双方をお参りする動機付けとなる仕組みの構築** → おまいり帖・御朱印帳の制作等
- (5) **「おいしい山形空港旅クラブ(仮)」の創設** → アクティブシニア層など潜在的な需要の掘り起こし
- (6) **空港アクセスの充実** → 蔵王温泉ライナーの運行、レンタカーによる出羽三山への誘導方策の検討



2. 改善した取組のポイント(方針)

(1) 実施体制(双方向・連絡会議)の整備(委員指摘:体制全体のマネジメント、持続性のある取組み)

・最終年度となることから、活性化プログラムの終了後も本プロジェクトを継続していくため、関係市町村や地元観光協会等と連携し、継続可能な運営体制の構築に取り組む。

(2) 中京圏、山形県の双方向のPR展開、(3) 山形～名古屋便旅行商品の造成・販売支援(委員指摘:OD地域間協力の継続)

・活性化プログラムにより、「西の伊勢参り、東の出羽三山参り」のコンセプト作り、PR、観光卸商品の作成に取り組んできたことにより、旅行商品の造成が順調に進んできていることから、双方向のPRを継続しつつ本事業の仕上げとして旅行代理店への造成支援に加えて、“旅行商品の販売支援”を実施し、実際の送客促進を図ることで、活性化プログラム終了後も商業ベースで旅行商品の造成、販売が行われるようにしていく。

(4) 伊勢神宮、出羽三山双方をお参りする動機付けとなる仕組みの構築(委員指摘:持続性のある取組み)

・1回で伊勢神宮、出羽三山双方をお参りする旅程は、経費や移動時間の問題から商品化までまだハードルが高いため、片参りを重ねて「西の伊勢参り、東の出羽三山参り」が完成する御朱印帳等を制作し、両参りの動機付けとなる仕組みの構築に取り組む。また、継続的な取組みとなるよう両参りが一体となった御朱印帳の商品化(神社や売店等で販売)も含めて検討する。

(5) 「おいしい山形空港旅クラブ(仮)」の創設(委員指摘:リピーター確保戦略、マスマーケティングからターゲットの明確化へ)

・ビジネスの第一線を退いているため、サポーターズクラブに取り込めずにいたアクティブシニア層を主な対象とした「おいしい山形空港旅クラブ(仮)」を設立し、潜在的な個人需要の掘り起こしを行う。(会員特典案)会員限定お得なツアーの企画、運賃助成など

(6) 空港アクセスの充実(委員指摘:継続性を高めるための適正な料金レベルの実現)

・蔵王温泉へのアクセスについては、持続可能な運用ができるようH27年11月から助成率を引き下げて運賃を1,500円から2,500円に適正化し、小型タクシーのみの運行からジャンボタクシーやマイクロバスを含めた運行にすることでコストを削減し、助成金の大幅な減額を実現した。H28年度は、制度改正前後の利用状況を分析し、活性化プログラム後も継続できる仕組みを構築する。

・羽黒山へのアクセスについては、貸切タクシーを運行したが、ほとんど利用が無かったことから運行を取りやめ、利用が増えているレンタカーへの支援を検討する。(例)レンタカー利用者に、羽黒山にある10軒の売店等の協力を得てH27年度に作成したクーポン(団子やお菓子、アイス、小物雑貨等と交換できるチケット)をプレゼントし、羽黒山への誘客促進を図る など

II 取組計画

2. 自動車産業を中心とした経済交流の拡大

1. 取組の実施計画(案)

(1) 2便化によるダイヤ改善、利便性向上のPR実施(委員指摘:ダイヤの使いにくさを改善する2便化の取組み)

キャラバン隊の相互派遣など愛知県内の経済団体等との相互交流継続、山形・愛知双方の経済団体の会報誌やテレビCM、H27企業アンケートにおいて山形～中京地域との往来があると回答した企業への重点周知等により、ダイヤ改善や利便性向上のPRを実施し利用促進を図る。

(2) 山形空港サポーターズクラブ会員に対する助成による運賃割引の実施

キャッシュバック型の助成金は、旅費精算上使いにくいという企業からの意見が多かったため、サポーターズクラブ会員限定で助成金額を差し引いた価格で購入できる制度をFDAと連携して構築。実施時に問合せが多かったアクティブシニア層等の取り込みは前頁1-(5)で対応。

(3) 県や市町村の企画や働きかけにより実施するツアーへの助成(委員指摘:マスマーケティングからターゲットの明確化へ)

山形～名古屋便利用の市町村による企画旅行、公的な団体や消防団の研修旅行等に助成することにより、同路線の旅行ツアーを創出する。

(4) 関係機関との更なる連携強化によるPR実施(委員指摘:ビジネス需要の増加効果への期待、技術の地域間移転や相互協力の継続)

山形県内及び愛知県内双方の経済団体や県営名古屋空港協議会、山形県自動車産業振興会議の取引拡大事業と連携し、増便によるダイヤ改善、利便性向上について、PR活動を活発化し、サポーターズクラブや運賃助成と合わせた相乗効果により本路線の利用拡大を図る。

2. 改善した取組のポイント(方針)

- ・これまで、ダイヤの不便さからビジネス利用が伸びなかったが、増便によりダイヤが改善されることから、経済団体の会報誌やテレビCMにより、利便性の向上をPRし、ビジネス利用の拡大を強力に進めていく。
- ・2便化実現により、これまでの「昼一便ダイヤの不便さ」という障害が無くなったため、愛知県から山形県に進出している企業や、中京圏にある山形県関連企業の事業所、営業所、親会社、アンケートで往来有りの企業等ターゲットを明確化し、訪問、PRして地道に搭乗者を積み上げて行く。
- ・市町村による企画旅行、公的な団体や消防団の研修旅行等、これまでダイヤの関係で羽田便や山形新幹線利用となっていた旅行等について、県や市町村の働きかけにより山形～名古屋便を利用する企画旅行・研修旅行等に助成し、名古屋便利用ツアーの創出を図る。

3. 「技能五輪2014in愛知」から「技能五輪2016in山形」へ

1. 取組の実施計画(案)

(1) 「やまがた技能五輪アビリンピック2016」参加者への支援

H28年度は、技能五輪が山形で開催されることから、大会事務局と連携し、中京圏からの出場者の航空機利用を促進する

(2) その他の大規模な大会、コンベンションへの横展開(委員指摘:一時的なイベントに終わらず、今後のイベントへの展開)

「全国豊かな海づくり大会～山形～(H28.9.10～11)」や「国民文化祭・愛知(H28.10.29～12/3)」等、イベントでの同路線の利用促進を図る

2. 改善した取組のポイント(方針)

- ・今回の技能五輪協議会と培ったノウハウを活かして、引き続き大規模な大会、コンベンションの開催に際し、関係部局などと連携してイベントを活用した航空利用の周知体制の構築を検討する。